

## 中央病院の最近の取組み

### 1 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症に迅速に対応するため、令和2年3月に院内連絡会議を設置して、入館時の検温・消毒や面会制限、院内の検査基準、職員の行動制限等、種々の細かい対策を実施。
- ・重点医療機関として、令和2年度に体外式模型人工肺(ECMO)や人工呼吸器、PCR検査装置等を整備。感染床病床4床、結核病床10床、救命救急センター2床の16床の受入病床を確保するとともに、10北病棟の20床を休床して、新型コロナウイルス感染症の入院医療に対応している。
- ・令和3年8月19日から9月21日まで及び令和4年8月2日から10月31日までは、さらに10階北病棟の22床を休床とし、追加で9床の受入病床を確保した。
  - ＜延べ入院患者数＞ 令和3年度 1,702人(令和2年度 663人)
- ・令和3年7月からは、在宅又は宿泊療養施設で療養する者に対する診察や重症度判断等を行う「メディカルチェックセンター」を開設して、入院治療患者以外の者にも対応している。
  - ＜延べ受診患者数＞ 令和3年度：579人(約9ヶ月間)
- ・令和3年11月には、後遺症に苦しむ患者等からの相談対応等を行うため、新型コロナウイルス感染症後遺症外来(総合内科での診療)を開始。原因不明・治療方法が確立されていない中、耳鼻いんこう科等とも連携しながら、診療に取り組んでいる。
  - ＜受診患者数＞ 令和3年度：18人(約4ヶ月間)

### 2 高度急性期医療体制の整備

#### (1) 救命救急医療の強化

- ・新病院開設に併せて救命救急センターの充実(14床→20床)を図るとともに、屋上ヘリポートと救命救急センターを専用のエレベータで直結させ、迅速な患者搬送を可能としている。
- ・24時間体制で急性心筋梗塞及び脳卒中の治療が可能な「心臓病センター」及び「脳卒中センター」各45床を配置。脳血管撮影装置を導入して、脳血管内治療を強化している。
- ・血管X線撮影装置を備え、心臓カテーテル検査と外科的手術を連続かつ安全に行える「ハイブリッド手術室」を新設。集中治療室(ICU 6床)及び高度治療室(HCU16床)を手術室に隣接して配置することで、重症患者の円滑な搬送を可能としている。
- ・令和3年4月から専任の集中治療専門医を確保して、救急集中治療科、小児救急集中治療科、救急外傷外科を新設するとともに、同年5月からは「特定集中治療室管理料」の算定を開始した。

＜救急車受入件数＞	令和3年度：	4,545件	対前年度	+	1,498件
＜ドクヘリの受入件数＞	令和3年度：	242件	対前年度	+	152件

#### (2) がん医療の強化

- ・新病院開設に併せて、がんの早期診断に有効なPET-CTや強度変調放射線治療機(IMRT)、高精細な4Kモニターを備えた手術用内視鏡システムを導入。令和元年9月には手術支援ロボットダビンチXiを導入した。
- ・令和元年10月には、がんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療を開始するとともに、緩和ケア病棟(10南病棟)を設置して、患者の苦痛や不安へ配慮している。
- ・令和元年12月には、がん医療を横断的に統括するがんセンターを設置。令和2年1月には、県内で唯一の「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定されている。
- ・手術支援ロボットダビンチXiについては、これまでの泌尿器科や外科に加えて、令和4年5月からは呼吸器・乳腺・内分泌外科でも、胸腺腫瘍や肺がんに対するロボット手術を開始した。
- ・強度変調放射線治療機については、令和4年4月から放射線治療専門医が2名体制となり、5月から本格的なIMRT治療を開始した。

### (3) 小児・周産期母子医療の強化

- ・一般不妊治療から体外受精・胚移植、顕微受精をはじめとする高度生殖補助医療まで含めた不妊治療を実施している。
- ・東部の周産期医療の拠点として、新病院開設に併せて、新生児治療室を充実するとともに、合併症の妊婦等の治療を行う母体胎児集中治療室(MFICU)を増床した。  
新生児集中治療室(NICU)・回復室(GCU)(各6床→各12床)  
母体胎児集中治療室(MFICU)(2床→3床)

### (4) 災害時の安全・安心の確保

- ・地震などの災害発生時においても病院機能を維持し、被災患者を受け入れるため、免震構造を採用するとともに、医療機能を2階以上に配置し、洪水時等の病院機能を確保。洪水時等には国道9号線から救急車が直接病院にアクセスできる搬送路を整備している。また、大規模災害時に多くの患者が集中的に搬送されても対応可能なトリアージスペースを確保している。
- ・令和3年4月にはオール・ハザード危機管理体制の構築と災害医療に特化した診療を行う災害科を新設した。

## 3 連携と協働の拡大

- ・地域医療支援病院として、回復期、慢性期の医療を提供する医療機関との連携(病病、病診連携)をより推進していくため、他病院や診療所を訪問し意見交換を実施。
- ・令和3年4月から地域の医療機関と連携して継続的な医療提供と質の向上に取り組むことの証として、「連携医療機関証」を作成し、交付する取組を開始。同年9月からは、紹介予約の受付時間を18時まで  
に延長して、より紹介いただきやすい環境整備にも取り組んでいる。
  - ＜登録医療機関数＞ 186医療機関(9月末時点)
  - ＜登録要件＞ ・鳥取県・兵庫県北部に所在していること
  - ・年間5件以上の紹介患者があること
  - ・当院の開放病床登録医療機関であること
- ・令和3年度は、岩美病院、智頭病院、鳥取市立病院に診療支援を実施するとともに、圏域内外の急性期病院とも互いの重点分野を踏まえつつ、医師の相互派遣等を含めた連携強化を図った。
- ・令和4年度は、岩美病院、鳥取市立病院、尾崎病院に診療支援を実施。尾崎病院とは令和3年度から脳卒中カンファレンスを共同で開催し、連携を深めている。
- ・令和3年4月から東部圏域の4病院(鳥取赤十字病院、鳥取市立病院、鳥取生協病院、当院)での病院長会議を開催し、新型コロナウイルス感染症への協力体制や専門分担をはじめとする種々の課題に対する意見交換を実施し、連携を深めている。

## 4 再編及び圏域のネットワーク化

- ・鳥取赤十字病院と連携し、病床再編や医師の相互派遣、がんの疾患別の役割分担の推進、共同キャンサーボード(がん治療に係る症例検討会)の開催等を行い、限られた医療資源等を有効活用している。
- ・平成31年度からは、県立厚生病院、鳥取赤十字病院との3病院による診療材料等の共同購入を開始するとともに、県立厚生病院との間で医薬品の一部共同購入を行っている。

## 5 医療情報の活用

- ・専門職の業務の効率化のため、費用対効果を踏まえつつICTの導入を推進。令和2年度には服薬指導の記録を効率的に実施することにより、服薬指導件数の大幅な増加が期待できるシステムを導入した。
- ・また、電子カルテに蓄積された医療情報を統計的に分析することを通じて、医療の質と経営効率を同時に高める取組も実施。(栄養食事指導や褥瘡ハイリスクケア加算の徹底)
- ・診療密度向上に向けた対策の強化(平均在院日数の短縮、オーダー漏れ対策)にも取り組んでいる、

## 6 人材の確保育成と働きがいのある職場環境づくり

- ・地域の基幹病院として高度・先進医療を提供する観点から、医師・看護師などのメディカルスタッフの更なる充実、確保と専門性を高めるよう、以下の取組みを実施している。

- ＜主な取組＞
- ・職員の研究・研修、キャリアアップ支援
  - ・院内保育所の運営や看護師の夜勤専従の取組等を推進
  - ・働きやすさ向上のためのハラスメント連絡会の設置
  - ・働きやすさ改革タスクフォースを設置し、有給休暇の取得等を推進
  - ・医師の時間外削減ワーキンググループを設置し、タスクシフトの推進などを提言

- ・東部圏域における医療人材の確保、医療技術の向上を図る観点から、当院に「シミュレーションセンター」を開設すべく、必要なトレーニング機器等の整備に取り組んでいる。(令和4年度末整備予定)

- ＜配置予定機器＞
- ・超音波画像診断装置
  - ・心臓・腹部超音波検査トレーニングシミュレータ
  - ・消化器内視鏡手技トレーニング用シミュレータ
  - ・CVC穿刺挿入シミュレータ
  - ・末梢挿入中心静脈カテーテルPICCシミュレータ

## 7 県民理解の推進

- ・広報戦略タスクフォースを設置し、ホームページや市民講座の開催、院外広報誌「赤レンガニュース」の発行等を通じての病院の機能、活動等を広報。
- ・令和3年6月に、「鳥取県立中央病院診療案内2021」を刊行し、鳥取県東部・中部、兵庫県北部地域の医療機関等に配布するとともに、令和3年12月には、当院初となる「院内ツアー」を催行した。

## 8 健全経営の確保

- ・診療報酬の請求漏れ等を防止するために業務改善タスクフォースを設置するとともに、令和3年度から診療報酬の請求審査に関して、知見を有する専任の職員を配置し、さらに取組を強化。
- ・医薬品や診療材料の共同購入を進める等、費用の節減を進めるとともに、DPC特定病院群への復帰を図るための平均在院日数の短縮や手術件数の増加など、医業収益の増加を図るための対策を強化。

令和4年度から、DPC特定病院群への復帰を果たした。

＜平均在院日数＞	令和3年度：	12.0日	対前年度	▲	1.3日
＜手術件数＞	令和3年度：	4,393件	対前年度	+	401件
＜延べ入院患者数＞	令和3年度：	150,001人	対前年度	+	7,313人
＜入院単価＞	令和3年度：	78,096円	対前年度	+	4,924円
＜延べ外来患者数＞	令和3年度：	187,840人	対前年度	+	22,077人
＜外来単価＞	令和3年度：	21,804円	対前年度	▲	205円